

## 平成30年度教育課程拠点校事業実施計画書

### 学校の概要（4月6日現在）

ふりがな	とさしみずしりつしみずしょうがっこう	ふりがな	つつい ひろみ	教員数
学校名	土佐清水市立清水小学校	校長氏名	筒井 広実	27

### 研究主題

主体的・協働的に学ぶ児童の育成  
～深い学びにつながる対話と振り返りの活性化を旨とした発問・しかけの工夫・改善～

### 研究の内容

- ① 算数科における、深い学びにつながる主体的で対話的な学習を実現する教師の働きかけ
- ② 発問やししかけの工夫・改善による必然性のある対話と活用可能な振り返りの在り方
- ③ 「聴く・話す・書く」力を育成する系統的な指導方法の工夫・改善
- ④ 思考力・判断力・表現力の育成を旨としたノート指導の工夫・改善
- ⑤ 効果的かつ効率的な校内研修のあり方と組織的OJTの確立
- ⑥ 家庭学習の習慣化と質の向上を含めた学習習慣の形成

### 到達目標及び取組目標

#### 「主体的・協働的に学ぶ児童の育成」

- ① 全国学力・学習状況調査算数科において、全国平均+3ポイント以上を目指す。
- ② 高知県学力定着状況調査算数科において、県平均+3ポイント以上を目指す。
- ③ 標準学力調査算数科（2～5年）において、評定1の児童20%未満を目指す。
- ④ CRT検査（1～3年）において、評定1の児童7%未満を目指す。
- ⑤ 単元テストにおいて、基本問題は期待正答率以上、活用問題は県平均以上を目指す。
- ⑥ 授業力診断シートにおいて、児童及び参観者3.5P以上、教員3.3P以上を目指す。
- ⑦ 学校評価（算数科を含む授業づくり等の全般）において、90%以上の肯定的評価を目指す。
- ⑧ 公開校内研修や研究発表会のアンケートにおいて、85%以上の肯定的評価を目指す。
- ⑨ ⑧における教師の発問やししかけに関する項目では、90%以上の肯定的評価を目指す。
- ⑩ 授業力チェックシートに基づく若年教員（三年次未満の教員）の授業評価（評価者は管理職・初任者担当・研究主任他）を行い、評価者による評価4.0P以上（6.0満点）を目指す。
- ⑪ 家庭学習における予習と復習の比重3：7程度を目指す。また、家庭学習を毎日全部提出できる児童の割合95%以上を目指す。

### 検証方法

- ① 全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、標準学力調査、単元テスト、CRT検査等の結果を分析し、成果や課題、今後の取組について確認する。
- ② 全国学力・学習状況調査と高知県学力定着状況調査における記述問題の正答、誤答、無解答については、特に詳細に分析し実態や成果・課題を明確にする。
- ③ 年2回（6月、11月）以上、授業力診断シート（児童用・教員用・参観者用）の結果を分析する。また、公開校内研や研究発表会の際、参加者を対象に授業や研究協議、校内研修の進め方に関するアンケートを実施する。
- ④ 学校評価を実施（1月）し、成果と課題を明確にする。
- ⑤ 研究発表会で参観者に「教師の発問やししかけ」、「対話」や「振り返り」についての項目を設けたアンケートを実施する。
- ⑥ 学期毎に、聴き方・話し方・書き方の手引きや学び合いカードの活用状況や成果と課題について検証し、今後の対策を協議する。
- ⑦ 思考力・判断力・表現力が育成されているかどうか、毎学期末と研究発表会前の計4回以上活用力育成シートを基に検証する（評価項目：日々の授業、家庭学習、その他の場面）。

- ⑧ 学期に1回以上、ノートの実践交流の機会を設け、各学級のノート指導の進捗状況や板書計画の工夫・改善等について確認する。また、1単元・毎時間分の板書をデータで保存していき（初任者・二年次教員は全単元・毎時間）、協議等で活用するとともに、成果と課題をレポートにまとめる。
- ⑨ 若年教員の授業評価を週1回以上継続して行い、授業力チェックシートの集計結果を基に、学期末毎にレポートにまとめる。
- ⑩ いきいきカード（生活点検カード）を活用して月1回、家庭学習の時間を把握するとともに、全学級の家庭学習の提出状況を集約する。また、家庭学習の質や内容の向上、予習と復習の比重＝3：7についても、学期末毎に集約する。

### 3年間の研究計画

年度	内 容
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 算数科教科経営案・年間指導計画の活用と加筆修正（言語活動・算数的活動）</li> <li>② 授業研究「対話と振り返りを重視した新しい授業スタンダードの確立に向けて」</li> <li>③ 学習習慣の形成 （家庭との連携・算数に関する環境づくり）（校内の算数的環境づくり） （家庭学習提出状況の集約）（家庭学習・自主学習の手引きの活用）</li> <li>④ 公開校内研修と中間発表（講師招聘：笠井健一調査官〈年2回〉）</li> </ul>
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 算数科単元構想・活用力育成シートの作成と活用</li> <li>② 授業研究「深い学びにつながる効果的で必然性のある対話と活用可能な振り返りの探究を通して」</li> <li>③ 授業スタンダードを踏襲した上での、より柔軟かつ効果的な授業スタイルの確立</li> <li>④ 学習習慣の形成 （家庭学習の手引き、自主学習の手引きの見直し）（予習の手引きの作成）</li> <li>⑤ 公開校内研修と中間発表（講師招聘：笠井健一調査官〈年2回〉）</li> </ul>
第3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 算数科単元構想・活用力育成シートの作成と活用</li> <li>② 授業研究「深い学びにつながる必然性のある対話と活用可能な振り返りを活性化させる発問・しかけの工夫・改善」</li> <li>③ 資質・能力ベースのめあて・まとめ・振り返りの研究</li> <li>④ 教師の発問やしかけに焦点をあてた研究協議の確立</li> <li>⑤ 学習習慣の形成 （家庭学習の系統化）（家庭学習の質の向上）</li> <li>⑥ 公開校内研修と研究発表（講師招聘：笠井健一調査官〈年2回〉）</li> </ul>

※当該年度の具体的な研究計画については別に添付すること。（様式は拠点校で定める。）

※加配教員の活用については別業とすること。

**加配教員の活用（別葉とすること）**

学校名 土佐清水市立清水小学校

校長名 筒井 広実 印

研究推進の中核となる教員	氏名	岩井 圭	在籍年数	4年
	校務分掌及び時数	研究主任・算数科少人数指導（10時間）		
具体的方策	<p>（1）組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の校内研修は「研究部」《研究推進委員会/深い学び部会》と「実践部」《確かな学力部会/豊かな心部会》の2部門で進めていく。</li> <li>・教育課程拠点校加配教員は、平成22年度からの3年間と平成25年度からの3年間の新教育課程拠点校指定事業の流れを継続しつつ、平成28年度からの教育課程拠点校事業を推進していく。主として、「研究部」において算数科の教科経営、授業モデルの確立を提案し、校内研究推進の中心的役割を担っていく。</li> </ul>			
	<p>（2）具体的な取組内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究の中心的役割を担い、算数科における教科経営計画をよりよく改善していくための推進役を務める。</li> <li>② 研究テーマに沿った授業づくりに重点を置き、理論と実践の取組を行う推進役を務める。また、「聴き方・話し方・書き方の手引き」「清水小学び合いカード」「算数日記スタンダード」の見直しやより効果的な活用方法について研究を深め、深い学びにつながる授業構成を目指した授業研究や必然性のある対話や活用可能な振り返りを活性化させる発問やしかけの工夫・改善を校内研修で定期的に進捗管理を図り、推進していく。</li> <li>③ 学力調査や単元テストの結果を研究部や各学年で分析・考察したものを提供し、課題の共通理解を図る。また、児童の学力向上の状況を授業力診断シート、授業評価、学校評価等のデータを基に資料の作成及び提案を行い、それぞれに設定している到達目標を校内研修で検証し、共通認識を図る。</li> <li>④ 授業モデル確立のために、5・6年生の算数科を担当する。その際、学級担任と連携し、昨年度の高知県学力定着状況調査や単元テスト、今年度の全国学力・学習状況調査で課題となった領域の単元を中心に、習熟度別少人数指導やTT指導にあたり、児童の学力的な課題の克服を図る。また、各学年の授業研究に積極的に参加し、教材研究の支援や資料の提供を行う。模範授業や提案授業及び助言等を行いながら、若年教員の育成や組織全体の意識改革を図る。</li> <li>⑤ 日常的に算数科における授業改善を進め、特に、児童が「主体的・協働的に学習に取り組める」ための教具の工夫や教材作成、資料づくりを中心となって行う。また、校内・教室の掲示物などの算数に関する環境づくりを積極的に行ったり、毎月モデルノートの提示やペーパーチャレランの問題準備や集計、結果報告を行ったりする。</li> <li>⑥ 先進的な取組や、効果的な取組が校内研修の場において進められるように研修会にも積極的に参加することで、組織的OJTの取組をさらに活性化し、教員の授業力の向上を図る。さらに、2部会や放課後学習教室と連携して、家庭学習の習慣化と質の向上を図る取り組みを提案・検証する。</li> </ol>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 組織的OJTの取組として、若年教員の授業評価、若年教員による授業観察の調整を行い、システムの充実化を図る。</li> <li>⑧ 算数科の少人数指導、TT指導の全学年分の週予定表を作成し、算数科における級外教員の配置を明らかにするとともに、計画的かつ効果的に算数科授業が実施できるようにする。</li> <li>⑨ 本校の授業スタイルをモデル提示するために、1学期中に公開校内研修で算数の授業を公開し、参加者に本校の取組を伝えるとともに、成果や課題を問う。また、『高知の授業づくり改革プラン』における平成30年度「学力向上推進対策事業」授業づくり講座の拠点校として、年2回の授業研究会を本校で行うとともに、他校の教材研究会や授業研究会に4回以上参加し、本校の取組を紹介したり、事後協議の推進役となり、研究会の活性化を図る。</li> <li>⑩ 公開校内研修や研究発表を行う際に、その推進役を担う。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎研究主任として週1回は授業参観を行い、取組状況を把握し、PDCAサイクルによる研究推進役としての役割を果たしながら、授業スタイルを確立する。</li> <li>① 深い学びにつながる対話と振り返りの活性化を目指した発問・しかけの工夫・改善を通して算数科の授業改善を図り、主体的かつ協働的に学ぶ児童を育て、3学期に行われる高知県学力定着状況調査や次年度の全国学力・学習状況調査等において県・全国平均+3ポイント以上とする。</li> <li>② 4月に行われる標準学力調査算数科(2～5年)において、評定1の児童20%未満とする。また、1月に行われるCRT検査(1～3年)において、評定1の児童7%未満とする。</li> <li>③ 研究発表会と「学力向上推進対策事業」の授業研究会以外に、年3回の公開校内研修を行い、授業を公開する。</li> <li>④ 対話につながる聴き方・話し方の手引きや学び合いカードの工夫・改善(年2回以上)や、根拠をもとに自分の考えが書けているかどうかの検証を定期的に行い、清水小の対話的な学びのスタイルを確立する。</li> <li>⑤ 適用問題・振り返りの工夫・改善を行い、成果物としてまとめる。</li> <li>⑥ 授業力診断シートにおいて、児童や参観者から3.5P以上、教師自己3.3P以上の肯定的評価を得ることができる。また、学校評価アンケートにおける「授業がよくわかる」の肯定的評価を90%以上にする。</li> <li>⑦ 組織的OJTの若年教員の授業評価は週1回以上行い、若年教員による授業観察は、初任者は週1回以上、二年次は2週間に1回以上、三年次は月1回以上行うようにする。</li> <li>⑧ 算数に関わる環境づくりと学習習慣の形成の達成目標は、授業アンケートや3学期に行われる高知県学力定着状況調査や次年度の全国学力・学習状況調査等の質問紙で、算数の学習についての肯定的な回答を90%以上とする。</li> <li>⑨ 家庭学習を毎日全部できる児童の割合90%以上とする。また、予習：復習が3：7になるようにする。</li> <li>⑩ HPの更新を定期的に(2か月に1回程度)行えるよう担当と連携し、取組や成果物を発信し普及を図る。</li> </ul>